

次期の見通し

平成 21 年度の販売電力量については、特定規模需要が前年度実績並みの水準にとどまるなか、オール電化住宅の堅調な増加などにより、電灯需要の増が見込まれることから、前年度に比べて 0.8% 増の 2,914 億 kWh を見込んでおります。

売上高については、電気事業において、販売電力量が増加するものの、燃料費調整制度により電気料収入の減少が見込まれることなどから、連結で 5 兆 1,300 億円程度、単独で 4 兆 9,200 億円程度となる見込みです。

一方、経常損益、当期純損益については、柏崎刈羽原子力発電所の全号機が運転を停止している中、現時点では、運転計画をお示しできる状況になく、費用を予想することが困難であることから、業績予想を未定としております。

業績予想については、お示しできる状況になり次第、速やかにお知らせいたします。

< 通期の見通し >

	連 結	単 独
売 上 高	5兆1,300億円程度	4兆9,200億円程度
経 常 損 益	未 定	未 定
当 期 純 損 益	未 定	未 定